様式ウ

新まちづくり計画（H16～18） 追加補強事業総括調書

(単位:千円)

予算事業名	芸術の森地区ウェルカムロード環境整備支援事業	
担当	南区市民部地域振興課 山本 582-2400(内線298)	
基本目標	4	芸術･文化、スポーツを発信する街さっぽろ
重点戦略課題	1	芸術･文化の薫る街の実現
施策	1	多様な芸術･文化に親しみ、交流･発信する環境づくり
関連新まち計画事業名		

		予算額	決算額	事業費の主な内訳
事業費		2,000	1,956	･ワークショップ開催費 671千円 ･研究委託 1,000千円 ･時間外勤務手当 199千円 ･その他 86千円
財源内訳	国･道支出金			
	市債			
	その他			
	一般財源	2,000	1,956	

事業実施(拡充)の背景･目的･考え方

＜芸術の森地区の特性＞

本市における芸術･文化の発信拠点であり、また、豊かな自然に恵まれた地域である。地区内には、札幌芸術の森をはじめ、札幌市立大学、滝野すずらん丘陵公園などの公共施設が集積している。

＜事業実施の背景＞

芸術の森町内会連合会では、平成17年2月の住民ワークショップにおける議論を踏まえ、美しい景観の形成をまちづくりの重点課題に位置づけている。このため、シーニックバイウェイ制度を活用し、芸術･文化ゾーンにふさわしい沿道景観の形成を図ることとした。

＜事業の目的＞

シーニックバイウェイ制度を活用した芸術の森地区の景観形成を支援し、もって、住民主体のまちづくりの推進を図ることを目的とする。

事業内容(量･場所･規模等)

＜18年度＞

･勉強会の開催支援

シーニックバイウェイ制度に対する理解を深めるため、町内会連合会の役員等を対象とした勉強会を2回にわたり実施した。

･住民ワークショップの開催支援

地域住民や各種団体の関係者によるワークショップを実施。約130名の参加者が12グループに分かれ、地域における今後の取り組みについて議論した。

･シーニックバイウェイ専門委員会の開催支援

住民ワークショップにおける議論を踏まえ、専門委員会を設立。ルートの提案方法や、今後の推進体制などについて、継続的に議論を重ねている。

･雪あかりの祭典事業の開催支援

1～2月にかけて、国道沿線をイルミネーションやアイスキャンドルで装飾するとともに、地区内の3ヶ所で住民の交流イベントを実施。幻想的な景観づくりと冬季の賑わいづくりに取り組んだ。

･札幌市立大学への研究委託

芸術の森地区の景観づくりを検討するにあたり、空間デザインのノウハウを活用するため、札幌市立大学に研究を委託。将来の景観イメージや、大学の専門性を活かしたイベントの企画について、報告･提案がなされた。

評価(成果)

･景観づくり活動の活性化

雪あかりの祭典事業では、景観演出の工夫もなされ、幻想的な景観づくりが図られた。

･地域内の連携促進

地域を挙げた景観づくりの取り組みにより、町内会連合会と各種団体の新たな連携が図られた。

･北海道開発局との関係構築

シーニックバイウェイを通じて、北海道開発局との連絡調整や意見交換が行われ、関係構築が図られた。

･他地区への波及

芸術の森地区の取り組みが紹介された結果、定山渓地区や石山地区などにおいても同様の取り組みを検討している。

課題

･環境問題への対応

シーニックバイウェイ制度は、ドライブ観光を促進するという側面もあるため、自然環境に与える影響が懸念される。このため、エコドライブの啓発、植林、自転車等による周遊などを組み入れた活動の展開が不可欠である。

･幅広い住民の参加

シーニックバイウェイ制度は、景観づくりなどを通じて、住民の地域への誇りを醸成するとともに、集客交流を図る取り組みである。幅広い住民の参加を得るためには、観光振興に特化することなく、生活者の視点を大切にしながら地域の魅力づくりを図る必要がある。

19年度以降の方向性・事業の予定

＜今後の方向性＞

平成19年度以降は、国道453号線に加え、230号線におけるシーニックバイウェイの取り組みを支援する。当初、国道453号線については、230号線に先行してルート申請が行われることを想定していたが、芸術の森地区や北海道開発局からの提案により、453号線と230号沿線が一体となってルート申請を行う方向で議論している。

今後、区レベルの協議体組織を立ち上げ、19年度は南区における推進体制や活動方針を検討し、20年度は具体的な活動計画づくりに着手することとなる。同組織における検討状況にもよるが、ルート申請については20年度末以降を想定している。